

編集後記

鹿児島でも新型コロナウイルスの感染拡大が起り累計で200人を超える感染者が出ており不安な状態が続いております。また、令和2年7月豪雨災害では、熊本県など各地で甚大な被害をもたらしました。被災された方々の一日も早い復興を切に願うばかりです。

「誌上ギャラリー」は、山口淳正先生より「燃える海」と題した写真が届きました。夜空に輝く2つの赤い花火が市内を明るく照らし暗い話題が多い中、心が晴れるような元気をもらいました。ありがとうございました。

坂本泰二先生より鹿児島大学病院長就任のご挨拶をいただきました。鹿児島大学病院の更なる発展に導いてくださる事と思います。ご活躍を祈念いたします。

「緑陰随筆特集」は総数16本の随筆と絵画の力作が掲載されています。新型コロナウイルス関連の話題も多く、感染予防が一番大切と身の引き締まる思いです。ご寄稿いただきました方々に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

「医療トピックス」のコーナーでは「シックデイ時の薬の調節について」川添先生よりご紹介いただきました。シックデイ時には脱水による腎機能低下で薬剤の排泄低下が起こるため、十分な水分補給やお粥などの食べやすい形にすることが必要とのことでした。

「医師会病院だより」では、循環器内科より6分間歩行負荷試験についてと、生理機能検査室から心臓ペースメーカーと遠隔モニタリングについての紹介がありました。引き続き患者ご紹介の程宜しくお願ひいた

します。

「学術」では、南風病院の古川淳一郎先生より「内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が肛門周囲乳房外Paget病（EMPD）手術において有用であった一例」と題し、ご寄稿いただきました。ESD手技で粘膜下層の剥離ができ、腫瘍の確実な切除が出来たため、永久人工肛門を避ける事が出来たとのことでした。貴重なご報告ありがとうございました。

「隨筆・その他」では、古庄先生より、【切手が語る医学　交通安全・献血・労働安全衛生・有機化学】が紹介されています。いつも珍しい切手のご紹介ありがとうございます。

リレー隨筆は留岡先生より「今まで振り返って」と題してご寄稿いただいております。後期研修中とのことですので、今後色々な経験を積まれご活躍される事思います。

「区・支部だより」では、第1回中洲支部会の様子が報告され、感染対策に留意しながら開催されたとのこと、支部長の久松先生もかなりのご苦労をなされたのではないかと思います。お疲れ様でした。

本来であれば、東京五輪での日本人選手の活躍や全国が盛り上がっている様子をお伝えするはずでしたが、新型コロナウイルスによる全世界への感染拡大により延期、高校3年生にとっては最後のインターハイや夏の甲子園大会も中止となり心が痛むばかりですが、前を向くしかありませんので頑張ってこの難局を乗り越えていきましょう。

(編集委員 角 純啓)